

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2018年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習について

練習は補助競技場及び、室内走路を利用することができる。また、投てき練習は、ウォームアップ場係の指示に従い、安全面に十分に注意すること。練習場は混み合う可能性があるため、練習の際は怪我・事故等のない様に細心の注意を払うこと。主催者は一切責任を負わない。

3. 競技場使用の注意

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは9mm以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では12mm以下を使用すること。建物内ではスパイクで歩かないこと。
- (2) 選手は競技役員の指示に従って入場、退場すること。

4. 招集について

- (1) 招集所は400mスタート地点横、競技場出入口付近に設置する。なお、棒高跳の招集は競技実施場所（バックストレート側ピット）で行う。
- (2) 種目別の招集開始及び招集完了時刻はプログラムの競技日程に記載してある。
※ 混成競技の招集は1日目、2日目とも最初の競技種目開始予定時刻の20分前に招集所で完了する。各日程2種目以降の招集は、トラック種目は各スタート位置にて10分前に、フィールド種目は各試技場において20分前に完了する。（ただし、棒高跳は試技場にて30分前に完了する。）以後は競技役員の指示に従うこと。
- (3) 招集完了時刻5分前までに招集所で競技者本人が点呼を受ける。その際、ナンバーカード等の点検を受け、トラック競技においては腰ナンバー標識を受け取る。招集完了時刻にスタート待機場所・フィールド待機場所への移動を開始する。
- (4) 招集完了時刻に遅れた者は、失格とする。
- (5) 競技規則第144条3(b)により、スマートフォン等の機器は、招集所を含めて競技区域内に持ち込むことはできない。違反した場合は警告を受け、同じ行為を繰り返した場合は、失格とする。
- (6) 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」を招集所（競技者係）に提出する。「重複出場届」は招集所で配布する。
- (7) リレー競技はオーダーの変更の有無にかかわらず、その都度オーダー用紙（招集所に用意）に1チームにつき1部記入して、招集完了時刻1時間前までに招集所（競技者係主任）に提出すること（リレー競走については170条を参照のこと）。オーダー提出前に棄権するチームは不出場届を招集完了時刻1時間前までに提出すること。

(8) 不正スタートについては一回で失格とする。

5. 棄権について

- (1) 選手の棄権は、代表者会議で受け付けた者のみとする。
- (2) 当日やむなく棄権する場合には、不出場届（招集所に用意）を当該校監督署名捺印の上、各ラウンドの第1組招集開始時刻前までに招集所（競技者係）に提出すること。その届け出た種目に限り棄権を認める。
- (3) 不出場届を提出せず棄権した場合はリレーを含め以後の競技への参加を認めない。
- (4) リレー競技の棄権については、各ラウンドの第1組招集完了時刻1時間前（リレーオーダー用紙提出時刻）までに不出場届（招集所に用意）を招集所に提出すること。リレーオーダー用紙提出後に棄権するチームは、不出場届を各ラウンドの第1組招集開始時刻前までに提出すること。いずれもリレーについて不出場届未提出の場合は、棄権として処理するが、競技会運営を円滑に進めるため、誠意ある対応をお願いする。

6. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは本大会用のものを使用すること。ただし、5000m、10000m、3000m S C、10000m W については、主催者側で用意したオーダー番号のものを使用する。
- (2) トラック競技の出場者は招集時に配布される写真判定用の腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。なお、腰ナンバー標識は、レース終了後、フィニッシュ付近で回収する。
- (3) ナンバーカードは、胸・背両面につける。ただし、跳躍競技については、胸または背のどちらか一方でもよい。

7. 競技用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使用すること。ただし、棒高跳用ポール及び投てき物は個人所有のものを使用することができるが、投てき物は検査を受け、許可されたものでなければ使用できない。投てき物については競技開始1時間前に競技役員の検定を受けること（検定所は招集所に設け、投てき物は競技者係に預ける）。

8. 番組編成及び、走路・競技順について

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の順による。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝の組み合わせ及びレーン順は、主催者が公平に番組編成を行い、その結果を招集所付近に掲示する。

9. 競技について

- (1) 棒高跳以外のフィールド競技における持ち時間は各種目30秒とする。棒高跳は1分とする（第180条17参照）。

(2) 走高跳および棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習 A	練習 B	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m75	1m85	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	2m03	以降 3cm 刻み
男子棒高跳	3m00	3m60	3m20	3m40	3m60	3m70	3m80	3m90	以降 10cm 刻み
男子混成走高跳	1m50	1m65	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	以降 3cm 刻み
男子混成棒高跳	2m80	3m40	2m80	2m90	3m00	3m10	3m20	3m30	以降 10cm 刻み
女子走高跳	1m35	1m45	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	以降 3cm 刻み
女子棒高跳	2m00	2m40	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	2m90	以降 10cm 刻み
女子混成走高跳	1m30	1m45	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	以降 3cm 刻み

(注) 第 1 位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は 2cm、棒高跳は 5cm とする。優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

(3) 男子混成棒高跳は、2 ピットで行う。A ピットは 2m80 から、B ピットは 3m40 から実施する。

(4) 三段跳において、踏切板から砂場の近い方の端までの距離を男子は 12m、女子は 9m とり、競技を行う。ただし、競技者レベルに合わせて審判長が判断し、男女ともに砂場までの距離を変更する場合がある。

(5) 男女 5000m、10000m、10000mW については時間制限を設ける。それぞれ以下に示した時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打ち切ることとする。

	5000m	10000m	10000mW
男子	20 分	40 分	60 分
女子	25 分	45 分	65 分

10. 表彰及び対校得点について

(1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当する者は競技成績発表(アナウンス)終了後、表彰を行うので本部表彰席に集合し表彰係の指示に従うこと。

(2) 第 4 位から 8 位までの入賞者には賞状を授与する。競技終了後、受付に用意するので取りに来ること。

(3) 成績の優れた男女各 1 名を最優秀選手として閉会式において表彰する。

(4) 対校得点は、1 位 8 点、2 位 7 点、以下 6、5、4、3、2、1 点とする。

(5) 総合が同得点の場合、1 位種目の多い学校、それでも決まらない場合は 2 位種目の多い学校、以下 3 位、4 位、5 位、6 位、7 位、8 位、4 × 400mR の成績で決定する。

(6) 表彰の際は、大学指定のジャージまたは T シャツを着用し、商標名の入った服装は避けること。

1 1. 抗議について

競技の結果、または競技進行中に起きた競技者の行為に関する抗議は、競技結果が大型スクリーンで正式発表されてから、競技規則第 146 条 2 及び第 146 条 2【国内】に定められた時間内にその競技者または代理人が、担当総務員を通して審判長に口頭で行う。さらに裁定に不服の場合は預託金（1 万円）を添え、担当総務員を通して Jury に文書で申し出る。

1 2. 第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会へのエントリーについて

各種目優勝者には 9 月 7 日(金)から 9 日(日)まで神奈川県等々力競技場で行われる第 87 回日本学生陸上競技対校選手権大会に出場標準 C 記録突破者と同じ扱いで参加する権利が与えられる。

1 3. その他

(1) 集団の応援について

集団応援は、放送設備の連絡系統の妨害を避けるために、メインスタンドでは行わないこと。なお、競技の妨げにならないように十分に注意して行うこと。

(2) 応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療費は本人の負担とする。また、事故の結果については本連盟は一切責任を負わない。

(3) 競技場の開場・閉場時刻

		(開場時刻)	(閉場時刻)
大会前日	6 月 29 日 (金)	12 : 00	17 : 00
第 1 日目	6 月 30 日 (土)	7 : 30	18 : 30
第 2 日目	7 月 1 日 (日)	7 : 30	18 : 30
第 3 日目	7 月 2 日 (月)	7 : 30	15 : 00

※補助競技場の閉開門時刻は設けない。

(4) ゴミについて

各参加校は、大会期間中競技終了後、ゴミの始末を責任を持って行うこと。ゴミは原則として各校で必ず持ち帰ること。

(5) 競技場内について

競技者の芝生への一切の立ち入りを禁ずる。

大会期間中、競技者は特別な場合を除き、本部前（ダグアウト通路）を通行してはならない。

(6) 開・閉会式について

開会式は行わず、開始式のみ行う。

閉会式は特別な理由がない限り必ず出席すること。なお、部旗がある大学は必ず持参すること。

(7) 雨天走路について

室内走路は全日一般開放のため、利用する場合は一般利用客の安全に十分注意して利用すること。

(8) ユニフォームについて

ユニフォームは各大学一類のものに統一して、着用すること。

異なるユニフォームを着用する場合は、事前に申し出ること

(9) 用器具の破損等について

万が一、競技場の器物を破損した場合は、その修理費等を破損した選手が属する大学に請求する。

(10) 大会期間中の荷物の管理について

大会1日目、2日目終了後、シートやテントを競技場コンコースに置いていくことは認めるが、スタンドに置いていくことは認めない。また、紛失、破損について主催者は責任を一切負わない(各学校で風雨対策を行うこと)。芝スタンドのテント、シート類は毎日撤去すること。

(11) 主催者の許可なく競技場内の電源を使用することを禁止する。